

祝！2019年ノーベル経済学賞*記念セミナー

日本の NGO/NPO が実証実験で世界を変える可能性

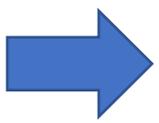
—マサチューセッツ工科大学(MIT) 貧困アクションラボ(J-PAL)が実践する RCT を使って世界を変える—

*MIT の貧困アクションラボの 3 人の研究員が受賞しました。

NGO はユニークな取り組みで、途上国の貧困問題等の解決に取り組んでいます。そして、NPO は日本内外の社会問題等の解決に真摯に取り組んでおります。そんな中、NGO のひとつの取り組みが世界を変えた事例があります。

マサチューセッツ工科大学(MIT)の「貧困アクションラボ」(J-PAL)は、最も厳格なインパクト評価デザインである RCT(ランダム化比較実験)により、客観的なエビデンスの産出を続けています(実証実験)。オランダの NGO の ICS(International Christelijk Steunfonds)は、J-PAL と協力して、ケニアで小学生に回虫駆除薬を配布して小学生の出席日数を劇的に増加させることを実証しました。その結果は広く参照され、エチオピア、インド、ケニア、ナイジェリア、ベトナムで国家レベルの政策として採用されるに至りました。現在までに 3 億人(正確には 292million)が裨益しました(2019 年 12 月現在)。

このセミナーでは、まず、国際開発センター(IDCJ)の佐々木亮・主任研究員からノーベル経済学賞の意義を解説するとともに、受賞者の一人であるアビジット・バナジー教授との RCT の是非をめぐる議論の顛末を紹介しします。続いて、MIT 貧困アクションラボと協働した経験を有するコペルニクの中村俊裕代表にご講演いただきます。さらに、佐々木から、MIT 貧困アクションラボのインパクト評価の代表的な事例2件を紹介致します。

 <p>オランダの NGO の 1 件の実験結果</p>		 <p>世界中で3億人の児童が裨益</p>
ケニアのブシア県 75 校での回虫駆除薬配付の実験。たった 10 ドルで一人あたり 1.2 年分の就学年数の増加を実現。		エチオピア、インド、ケニア、ナイジェリア、ベトナムで国家レベルの政策として採用された。

(Source) Deworming to increase school attendance, 貧困アクションラボ(J-PAL), MIT

<https://www.povertyactionlab.org/case-study/deworming-schools-improves-attendance-and-benefits-communities-over-long-term>

日時: 2020 年 2 月 27 日(木) 14:00-16:15.

場所: 日本財団 大会議室 A

主催: 国際開発センター(IDCJ) 評価部

発表者: 佐々木亮(国際開発センター評価部主任研究員)

中村俊裕(コペルニク共同創設者 兼 CEO)

司会: 小室雪野(国際開発センター評価部研究員)

参加費: 3,000 円(当日会場の受付にてお支払いください。領収書をお渡します。)

申し込み方法: 件名に「祝！2019 年度ノーベル経済学賞記念セミナー参加申込」と入れ、「お名前」「ご所属先」「電話番号」「メールアドレス」を記載してメールでお申し込みください(training@idcj.or.jp、担当:小室)。

セミナー内容

1. ご挨拶(14:00-14:10)
池内賢二 森啓子(日本財団)
2. 講演1:佐々木亮(14:10-14:40)
『2019 年度ノーベル経済学賞の意味:インパクト評価の起源、歴史、MIT 貧困アクションラボのバナジー教授との RCT の是非を巡る議論』
3. 講演2:中村俊裕(14:40-15:30)
『MIT の J-PAL との協力の経験、NGO と実証実験、世界を変えよう』
4. 講演3:佐々木亮(15:30-16:00)
『貧困アクションラボの RCT 評価の実例:日本の NGO も必ずできる』
(1)世界で最も有名な RCT 評価:ケニアの回虫駆除薬配付の実証実験の解説(オランダの NGO ICS)
(2)マイクロファイナンスは奇跡か?:インドにおける実証実験(インドの NGO Spandana)
5. 質疑応答(16:00-16:15)

<会場のご案内>

所在地: 東京都港区赤坂一丁目2番2号日本財団ビル 電話:03-6229-5111



日本財団ビル二階会議室レイアウト

- AV設備(プロジェクター&スクリーン)(固定式) ⇒大会議室A, 第1, 第3会議室の3箇所に設置

PC(裏持参), OHC, VHS, DVD投影
 カセット, CD, MD, 天井カメラ(大会議室のみ)
 ワイヤレスマイク2本, 有線マイク2本, ピンマイク1本

- 通訳設備(通訳用マイク15本)

大会議室AB又は第1~4会議室選し利用のレイアウトで使用可能

- その他備品(移動可)

プロジェクター2台, OHC1台,
 スクリーン2台, カセットデッキ2台

